

オリンピック・パラリンピックを契機とした 「まちづくり」「ひとづくり」

総合政策局
教育委員会

資料1

千葉市の教育に関する大綱

オリンピック・パラリンピックを契機に、スポーツの魅力等を感じる機会や「おもてなし力」、都市の魅力などの充実とともに、車いすスポーツが盛んな土壌を活かし、障害の有無にかかわらず共に交流でき、誰もが積極的に社会参加・貢献できる共生社会の形成に向けた取り組みを進め、この機会に創出した、様々な都市の財産としての「レガシー」を未来へ引き継いでいきます。

【レガシー】

取り組みの成果として未来に引き継いでいく千葉市の財産

⇒ 「まちづくり」「ひとづくり」を一体のものとして、2020年以降も引き継がれるレガシーを創出

現状

◇平成27年 幕張メッセでの競技開催決定

オリンピック3競技(フェンシング・レスリング・テコンドー)

パラリンピック4競技(車いすフェンシング・テコンドー・ゴールボール・シッティングバレーボール)

◇平成28年3月 千葉市行動計画【改定版】策定



《東京オリンピック・パラリンピック プロジェクト推進本部》

本部長:市長 副本部長:両副市長、

本部員:病院事業管理者、教育長、各局長、各区長、会計管理者、議会事務局長

オリ・パラに向けた取組の方向性と目指すべき千葉市の姿

- ◆ 千葉市のさらなる発展
- ◆ 次代を担う子どもたちの夢と希望をはぐくむまち
- ◆ 多様性を尊重した共生社会

方向性1
大会の成功を実現する

千葉市の国際的価値が向上し、選ばれる都市に

方向性2
スポーツ文化を普及し発展させる

市民がスポーツを身近に感じ親しむ、スポーツ文化の定着

方向性3
多様性に対応した共生社会を実現する

多様性を尊重し、自然に交流できる共生社会

方向性4
千葉市の魅力を高め、集客・宿泊を最大化する

諸外国の文化・風習を理解したおもてなしができる魅力ある国際都市

28年度の取組

「千葉市行動計画【改定版】」を踏まえ、東京オリンピック・パラリンピックを契機として取り組むべき「千葉市オリンピック・パラリンピック教育」の実施方針を策定し、今年度中に学校等に示すとともに、具体的な事業計画を定め実施する。

(「第2次学校教育推進計画」や「第5次生涯学習推進計画」で示した33年度(2021年度)までの教育政策の方向性と合致するもの)

千葉市行動計画【改定版】

(目指すべき子どもの姿)
夢と思いやりの心を持ち、
チャレンジする子ども

第2次
学校教育
推進計画

第5次
生涯学習
推進計画

市民が自ら学んだ成果を
生かし、活力あるコミュ
ニティを形成できる環境
づくり

ひと
づくり

「千葉市オリンピック・パラリンピック教育」の実施方針、事業計画を策定

※「オリンピック・パラリンピック教育」とはオリパラを題材にして、児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成を推進することを目的とする教育(文部科学省「オリパラ教育に関する有識者会議中間まとめ」)

■「千葉市オリパラ教育」のねらい

- ①オリンピック・パラリンピックを通して、スポーツの意義や価値などへの理解・関心を高め、障害者を含めた多くの市民が、生涯を通じて主体的にスポーツに参画するようにすること。
- ②オリンピック・パラリンピックの競技会場市民として、多様な文化を受け入れ、人々が互いの人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会の実現を目指すこと。
- ③千葉市の伝統文化と観光資源を生かし、千葉市民としてのアイデンティティ、豊かな国際感覚を高めるとともに、次代を担う子どもたちの夢と希望を育むこと。



■「千葉市オリパラ教育」を通じて目指すべき人間像

- I スポーツに親しみ、知・徳・体の調和がとれた人
- II 多様性を尊重し、共生社会実現に貢献できる人
- III 自ら学び行動できる国際感覚を備えた人



⇒ 車いすスポーツが盛んであること、パラリンピックの4競技の会場が千葉市であることを生かした千葉市ならではの施策を展開する

■ 4つの方向性を踏まえた教育施策の展開

千葉市行動計画【改定版】

方向性1 大会の成功を実現する

2020年大会開催を競技会場都市として迎えるための環境を整え、大会を成功に導くための取組を関係機関等と連携・協力し取組を進める。

方向性2 スポーツ文化を普及し発展させる

大会を機に高まるスポーツへの様々な関心を捉え、スポーツを取り巻く環境の向上を図り、市民の交流を促進する。また、車椅子スポーツの振興と活動の拠点化とともに、障害者スポーツの普及促進を強化し、障害のある人もない人もスポーツを通して交流できるまちづくりを推進する。

方向性3 多様性に対応した共生社会を実現する

オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、多様性を尊重し受け入れ、交流することができる、共生社会の実現とパラリンピックの成功に向けた取組を進める。

方向性4 千葉市の魅力を高め、集客・宿泊を最大化する

本市の観光資源を活かした新たな集客策の構築や新たな魅力の発掘や発信、官民の連携や市民による「おもてなし」や、交通利便性の向上や快適な滞在のための受入環境の充実を図り、来訪者に喜ばれ、行ってみたい・また来たい・住んでみたいと感じてもらえる都市を目指す。

「千葉市オリンピック・パラリンピック教育」 施策展開

①大会機運の高揚

...オリパラの精神・意義を学び、競技開催市民として主体的に参加する意欲を醸成する

②体力向上・健康づくり

...体力向上や健康づくりに意欲的に取り組む態度を醸成する

③多様性理解教育

...障害者等への理解を浸透させ、共生社会の実現に貢献する人を育てる

④国際理解教育

...千葉市民としてのアイデンティティを確立するとともに、豊かな国際感覚を醸成する

テーマ	学ぶ(知る)	行動する(発信する)
<p>①大会機運の高揚</p> <p>方向性1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○オリパラ学習読本等を活用し、オリパラの意義や歴史を学ぶ授業を展開【小・中・高】 ○オリパラ記念の給食メニュー【小・中】 ○教員研修の充実(①オリパラを支える人々や生き方を学ぶ。②パラリンピック競技の体験など)【小・中】 ○保護者や地域へのPR【小・中】 ○映像を活用した競技等のPR【小・中】 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校生が大会通訳ボランティアや、都市ボランティア(道案内)として参加【高】 ○市内小学生が、オリパラ関係国を調べ応援する学習活動など(国別に学校を定めた応援を検討)【小】 ○オリパラ教育の取組などをWEB発信して紹介【市民】 ○都市ボランティアの募集・育成・実践【市民等】 ○千葉市ゆかりの選手をPR【小・中・高・市民】(⇒リオ大会出場選手の学校訪問を検討中)
<p>②体力向上・健康づくり</p> <p>方向性2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保健体育の授業「体育理論」の充実スポーツの多様性を学ぶ【中・高】 ○トップスポーツチームとの交流事業の拡大【小・中】 ○トップアスリート等による実技講習や記念講演会の開催【市民】 ○科学館でスポーツ科学の展示【市民】 	<ul style="list-style-type: none"> ○「東京オリパラ記念」の小学校陸上大会に、オリンピック等を招聘【小】 ○パラリンピアン等との交流、障害者スポーツの試合観戦【小・中・高】 ○スポーツによる交流の促進【市民等】(障害の有無や世代に関わらないスポーツイベントの開催・支援)
<p>③多様性理解教育</p> <p>方向性3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○パラリンピック関連の題材・教材を使った道徳等授業の展開、充実【小】 ○学校におけるLGBTの対応への充実【小・中】 ○福祉と障害者関係の作文コンクールへの参加拡大【小・中】 ○障害者スポーツ支援ボランティア向けの講座の展開【市民】 ○障害のある人が障害の特性や配慮について説明する福祉講話の実施【小・中】 ○パラリンピアン等による学校訪問【小・中】 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者スポーツ支援ボランティアとしてパラリンピック等に参加【市民】 ○特別支援学校の児童生徒が作成した物品を展示販売【小・中・高】 ○オリパラ選手等の練習の応援・支援【小・中】 ○男女共同参画講座の実施(性別等多様性理解など)【市民】 ○障害者作品展の活用【市民】 ○スポーツ用車椅子体験【小・中】 ○スポーツ用車椅子の周知【小・中・高・市民】
<p>④国際理解教育</p> <p>方向性4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の町や市を海外からの来訪者に紹介する学習活動【小・中】 ○会場市の魅力を伝える「まちなか案内・パンフレット等」の作成募集【小・中】 ○学校における郷土学習の充実と教員向け郷土教育研修を開催【小・中・高】 ○国際交流ボランティアリーダーの育成【市民等】 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語教材Omotenashi(おもてなし)カードを使った国際交流【小・中】 ○「マンガ千葉氏」を活用した海外へのPR【市民】 ○加曽利貝塚の海外向け紹介動画発信と大会を契機としたPRや展示の充実【市民】

○なぜ、パラリンピックか？

- パラリンピックには、社会の認識を変える力がある。
 - 共生社会への契機

○幕張メッセでのパラリンピック成功の鍵は？

- 行政・大学・企業・団体・市民など都市の力の結集
 - 都市の成熟度が試される。

2020年
に向けて

障害者スポーツファンを増やす
障害者スポーツを知る、観る、ふれる、支える

2020年パラリンピックは、幕張メッセを満員に

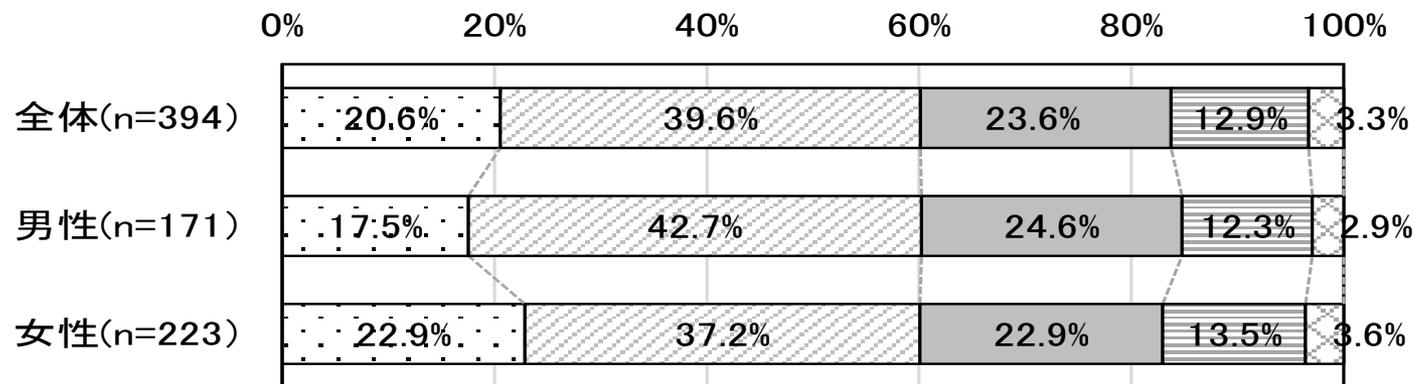
2012年ロンドンパラリンピックは史上最も成功した大会と評される

・観戦チケット270万枚販売(北京パラリンピックは約180万枚)

⇒パラリンピックへの関心が高く、多くの競技で観客席が埋まり、声援が送られた。

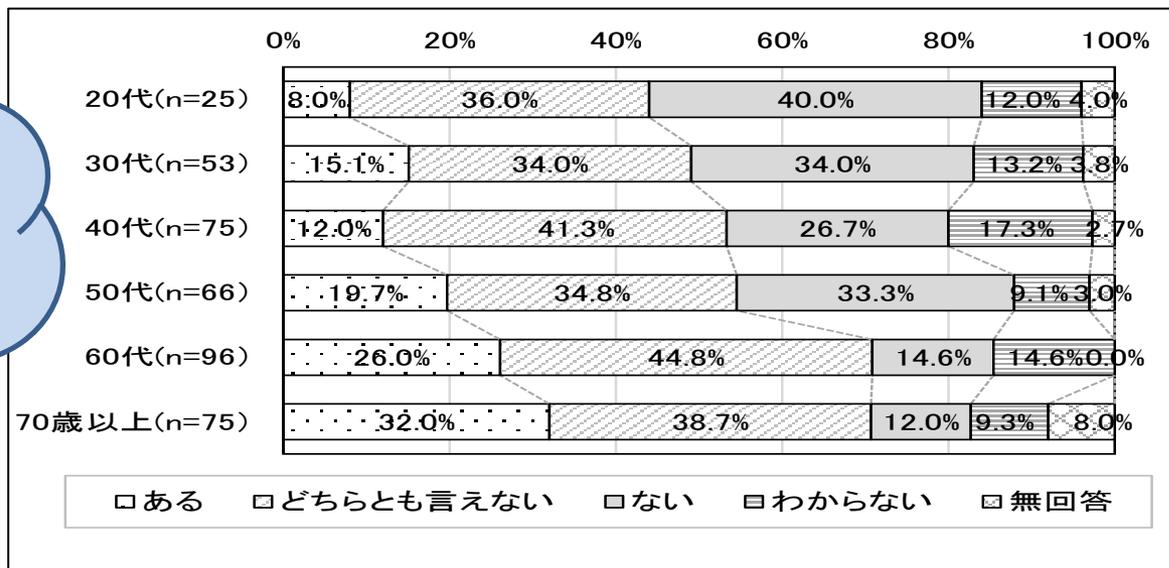
しかし当初は、パラリンピックのチケットを買い
と答えたロンドン市民はほとんどいなかった。

○障害者スポーツに関心がありますか。【調査対象：市民】



□ある □どちらとも言えない □ない □わからない □無回答

障害者スポーツに関心のある市民は約2割
若年層ほど関心は低い



□ある □どちらとも言えない □ない □わからない □無回答

儀礼的関心

ロンドンオリンピック
2012.7.27-8.12

銀座パレード
2012.8.20

ロンドンパラリンピック
2012.8.29-9.9

このオリ・パラを誘致しようとする
ポスターにパラリンピアンはいない

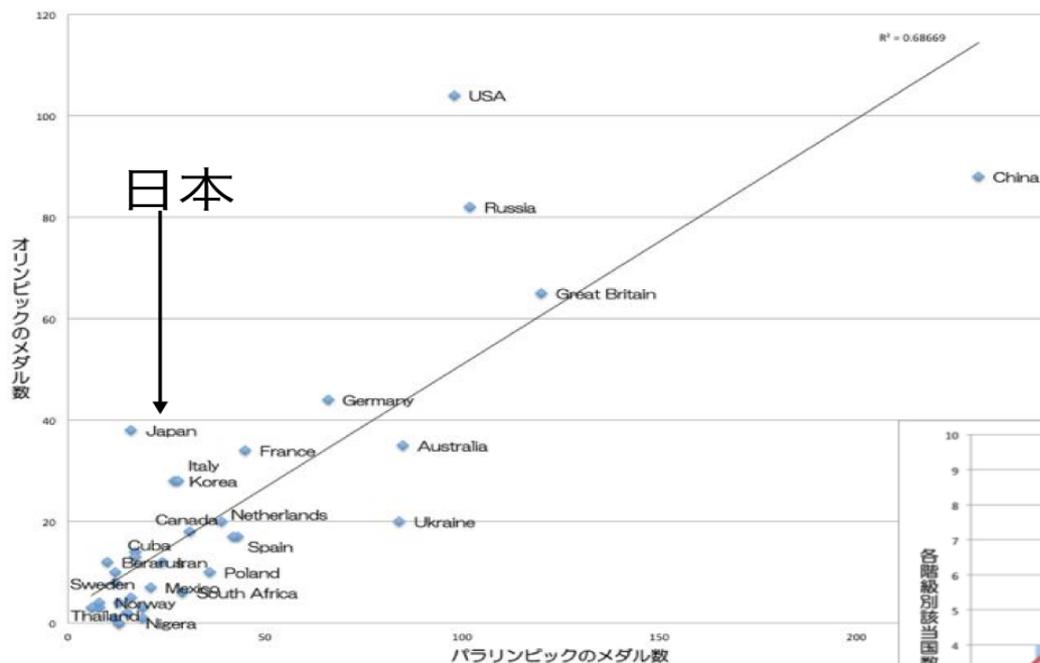


この感動を次は、
ニッポンで!

2013年9月7日、開催都市ついに決定。
2020年オリンピック・パラリンピックを日本で!

※【出展】「2020年のパラリンピックに向けて～障害者スポーツの歴史と課題～」
順天堂大学 スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科 准教授 渡 正
平成28年6月18日敬愛大学総合地域研究所シンポジウム2016「スポーツと地域振興」

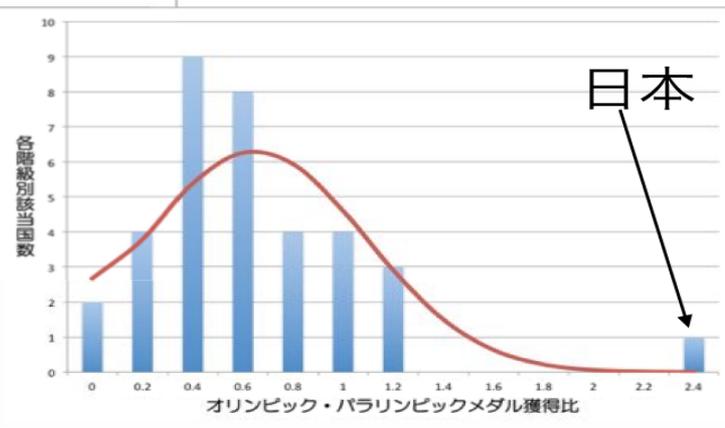
儀礼的関心



両大会のメダル獲得数の間には明確な相関関係 ($r=0.829, p<0.01$) が存在

オリンピックのメダル獲得数をパラリンピックのメダル獲得数で割った比を求め、その度数分布をとったとき、日本はその正規分布からは外れている。

2012年ロンドン・パラリンピックでメダルを獲得した35カ国が、ロンドン・オリンピックでどのくらいメダルを獲得しているかを求め、両大会の獲得数の比を算出した。また算出した比は正規分布となっていることからスミルノフの棄却検定を実施した。このとき日本の値は4.093であり、 $n=35$ 、有意水準0.01の T_n 値は3.178であることから、正規分布から日本の値を棄却することができる。



※【出展】「2020年のパラリンピックに向けて～障害者スポーツの歴史と課題～」

順天堂大学 スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科 准教授 渡 正

平成28年6月18日 敬愛大学総合地域研究所シンポジウム2016「スポーツと地域振興」

平成28年度 これまでの主な取組



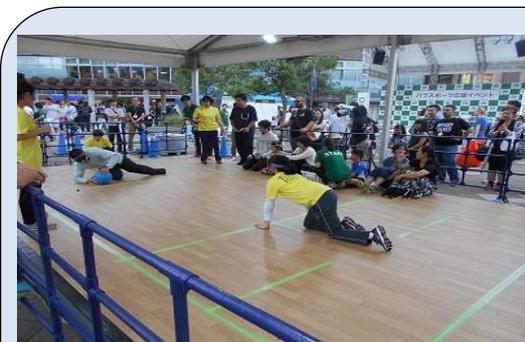
**リオ2016
パラリンピック
競技大会
パブリック
ビューイング**

海浜幕張駅西口 9/8 (土) 14:30～18:00 (19:00) / 10:00～13:00
 千葉市中央公園 9/10 (日) 11:00～13:00 / 14:00～17:00
 海浜幕張駅西口 9/11 (月) 10:00～13:00 / 14:00～17:00
 9/12 (火) 10:00～13:00 / 14:00～17:00
 9/13 (水) 10:00～13:00 / 14:00～17:00
 9/14 (木) 10:00～13:00 / 14:00～17:00
 9/15 (金) 10:00～13:00 / 14:00～17:00

To The 2020 CHIBA CITY

9/8～19 リオ2016/パラリンピック競技大会
パブリックビューイング

166,067人 来場



競技体験コーナー



障害者雇用セミナー



9/3 パラスポーツフェスタ

861人 来場



競技用具展示コーナー



障害者施設物販コーナー



9/17～19 パラスポーツ応援イベント

5,210人 来場



7/21 新任課長級研修
ゴールボール体験



9/27 市立千葉高校
国際理解教育講演会



障害者アスリートによる学校訪問

国際大会前の交流キャラバン
(平成27年度から実施)
 ・ウィルチェアーラグビー 7校 1025人
 ・車椅子バスケ 2校 518人
延べ1543人の児童が参加
 ⇒大会の観客人数が増加

障害者アスリート学校訪問
平成28年度 20校実施予定